

在宅介護サービス

「在宅介護サービスの費用は」

安原地区公民館 介護保険を考える講座

安原地区公民館は7月12日、「介護保険について考えよう」をテーマに公民館講座を開催しました。6月14日の第1回の開催に続き、この日も50人を超える参加者となり、関心の高さがうかがえました。

当日の内容は「在宅サービスにかかる費用」についてでした。講師に中央北地域包括支援センターの林みどりさんを迎え、誰もが気になるお金

在宅サービスにはヘルパーによる訪問介護、デイサービスなどの通所介護、小規模多機能型居宅介護、福祉用具のレンタルなどがあります。講師の林さんから「要介護3の方が、利用限度額の範囲内でのようなサービスを利用することができて、どのくらい費用がかかるのか」などの具体的な事例の紹介があり、参加者は大きくうなずきながら



地域住民代表との懇談会であいさつする濱田学長

交流と理解深め 信大との懇談会

信州大学と安原地区など地域住民代表との懇談会が7月26日、キャンパス内の旭会館で開かれました。安原のほか城北、城東、本郷各地区の町会長、公民館長など52人が参加しました。

恒例の交流機会で、濱田州博



講座を熱心に聞き入る受講生たち

興味深く聴いていました。民生児童委員協議会会長の草深邦子さんは、親の介護経験から「家族だけでの介護は精神的にも社会的にも負担が大きい。様子がおかしいと思ったら遠慮なく介護認定を受けて、上手に介護サービスを利用してほしい」と話していました。

会場に笑顔の輪広がる



例年より多くの人出でにぎわった納涼祭

恒例のサマーナイトフェスタIN安原が7月21日、安原地区公民館で開かれ、世代を超えた約450人が楽しい催しを満喫しました。

安原地区まちづくり協議会

サマーナイトフェスタIN安原 子どもゲームも盛大に

音楽系サークルへの対応を尋ねた質問には「のびのびと練習できる場所の確保に努めた」と答えました。

地域の行事への積極参加を求める声もありました。大学側は「催しの情報提供を願いたい。生活スタイルが異なる学生たちに、ひとり暮らしの心得を伝えていきたい」などと述べました。

猛暑を避けるため屋内に場所を移して行われた「子どもゲーム大会」には、多くの児童や幼児が参加。数分離れた場所からボールを転がして得点を競うスカットボールに歓声を上げていました。

大人たちには夕方からの納涼祭が特に人気でした。酒類やつまみの販売もあって、会場のあちらこちらに笑顔の輪が広がっていました。

安原地区公民館

信大キャンパス探検隊⑦

包括先進医療棟

今年4月にオープンした信州大学医学部附属病院先進医療棟を紹介します。

病院敷地南東に位置する地上7階地下1階建て、総面積約12,000㎡の建物には、下から順にMRI検査室、信州がんセンター・先端細胞治療センター(分子細胞診療室)、集中治療室(ICU)、手術部、産科、新生児科(NICU)。



新装なった包括先進医療棟

GCU)・生殖医療センター、レディース病棟、機械室が配置されています。院内では南病棟と呼ばれています。

信州がんセンターは県の旭

町庁舎から、レディース病棟は東病棟の4階と8階から婦人科と乳腺内分泌外科の一部が移転してできたものです。

手術部のロボット手術室、ハイブリッド手術室、スマート治療室をはじめ、最先端の設備とシステムが導入され、集中治療室の拡大、周産期医療とMRI検査室の充実を図りました。ベッドも増床、医師や看護師など専門スタッフも増員されました。

より安心・安全で高度な医療を提供し、プライバシーへの配慮も重視され、患者と家族に優しく快適で便利な療養



新生児1人ごとに支切られているNICU。プライバシーを守りつつ全体が見渡せる

いちよう並木

「黄蓮華升麻(キレンゲシヨウマ)はユキノシタ科・蓮華升麻(レンゲシヨウマ)はキンポウゲ科どちらも茶花として愛される植物を紹介」

2種とも落葉樹の下、半日陰に自生、保水力のある用土を好みます。黄蓮華升麻は豪華で黄色の品のある花をつけます。

蓮華升麻は淡紫を帯びた白い花が下向きに咲きます。共通点は蕾から開花までに時間がかかることです。

栽培のポイント 栽培のポイントは露地栽培。鉢植えとともに毎年または隔年に必ず植え替えを行ってください。肥料を好むため、油粕、骨粉を元肥として施します。肥料を与えすぎると、蕾が落ちることがあるため注意してください。どちらも希少価値の高い植物。植え替え時に株分けで増やすことができます。

子どもの居場所 学生とふれあい

放課後の小学生が過ごす場所を提供する「子どもの居場所」事業が、今年度4月より毎週水曜日の午後3時半から5時まで、安原地区公民館で行われています。

学生と小中学生との交流に力を入れている信州大学の荒井英治郎准教授の申し出もあって、6月からは教職を目指す学生が2人ずつ交代で参加しています。

7月11日は、旭町小学校6年生の女子児童2人が、一度



宿題を大学生から教わる小学生。和やかな時間が流れる。

帰宅したあと宿題とおやつを持参して視聴覚室を訪れました。宿題に取り組んでいるものの、学生の到着を今か今かと待ちわび、廊下の足音が気になってそわそわしていました。

この日現れたのは繊維学部1年生の大澤奈歩さんと農学部1年生の高田晏未さんです。大澤さんは2回目、高田さんは2週間に1度の参加でこの日が4回目。小学生から大歓迎を受けていました。お互いすっかり打ち解けた様子で、宿題をしながら学校の話、テレビやスマホについて

など、話題は次々と溢れて、瞬く間に時間は過ぎていきます。

信大生は自分の子ども時代を思い出しながら、小学生はお姉さん先生の話に目を輝かせて会話が弾みました。「建物の中なので宿題もおしゃべりもできて楽しい」「普段小学生と接する機会がないから新鮮」と、それぞれに有意義なひとときを過ごしていました。



レンゲシヨウマ(上)とキレンゲシヨウマ(下)

